

奈良の駅 シリーズ Vol.11



おうじ

駅名：王寺駅



王寺駅（大正当時）

【駅舎概要】

所在地：北葛城郡王寺町久度
 構造・規模：単式ホーム1面1線と島式ホーム2面4線、計3面5線の地上駅で、橋上駅舎。
 乗入路線：2路線 関西本線（大和路線）、和歌山線

【沿革】

明治23年(1890)12月：大阪鉄道の王寺駅-奈良駅間開業
 明治24年(1891)3月：高田駅まで延伸
 明治25年(1892)2月：湊町駅(JR難波駅)まで開通
 大正15年(1926)2月：王寺村から王寺町へ
 昭和47年(1972)：南側の土地区画整理事業、昭和61年(1986)完了
 昭和49年(1974)：久度大橋 整備 南側から北側へアクセスを確保
 昭和53年(1978)1月：久度大橋に直結される。橋上駅舎
 昭和57年(1982)8月：大和川、葛下川の氾濫、構内電留線が水没し100両が被災
 平成8年(1996)：北側の再開発事業、平成16年(2004)完了
 令和2年(2020)12月：王寺駅開業130周年

駅シリーズは、万葉まほろば線から奈良環状線の王寺駅へ。奈良にも環状ルートがあり、大和まほろば新探訪計画「なら SLOW&LOOP」（奈良県、JR、奈良商工会議所）は、大和路線の王寺～奈良、万葉まほろば線の奈良～桜井～高田、和歌山線の高田～王寺、計22駅でループとして魅力の紹介をしています。

11回目は鉄道のまち「王寺」を紹介します。



■鉄道のまち

奈良県で最初に鉄道が開通した奈良駅～王寺駅。駅の場所は、再三の路線変更を繰り返し、当初は龍田(斑鳩町)に駅を設置する計画もありましたが、大和川と葛下川に囲われた久度地域に王寺駅が設置されました。JR2路線の他、大正7年(1918)開業の近鉄田原本線（大和鉄道）新王寺駅、大正11年(1922)開業の近鉄生駒線（信貴生駒電気鉄道）王寺駅もあり、乗降客数は県内上位のターミナル駅として機能しています。

現在の駅舎は、線路を跨ぐ歩行者専用屋根付き陸橋の久度大橋と一体となっており、改札口が高架上にある橋上駅舎。全長147mのイルミネーションや雪丸ロードとして、だるま寺まで雪丸の足跡が続いています。駅や駅周辺には、受験シーズンにあわせて合格だるまさんがいっぱい。

久度大橋と直結している駅北側の複合施設りーべる王寺に、まちの歴史、鉄道写真、地域の高校生による鉄道模型等の展示があります。駅東側のJRと近鉄田原本線に挟まれた舟戸公園に、D51形蒸気機関車が保存展示されています。D51形895号機は、1115両製造された895番目で、昭和19年に製造され昭和47年に引退するまで関西本線や草津線で走っていました。運転席に自由に乗ることができるのは珍しくすごく迫力があります。



■保存・活用等

開業当時は北側が商業化し、昭和時代は南側にバスターミナルや商業ビルができ、平成時代は北側の再開発でにぎわいづくりができました。鉄道の開通と共に発展してきた王寺町は、来年で100周年。電車留置線の有効利用やD51の活用、全国だるまさんがころんだ選手権大会、王寺町の公式マスコットキャラクター雪丸の活躍が楽しみです。

【記：奈良支部 久保陽洋】

令和7年1月24日(金) ホテルリガール春日野で「奈良県建築士会 新年大交歓会」を開催しました。来賓・参与会員・賛助会員・士会会員合わせて84名の出席がありました。

会場は、円形テーブルに着席して食事をとる形式で行われ、壁際には賛助会員6社のカタログ・資料等が並べられ商品のPRをされていました。

大交歓会は、司会の栗原総務副委員長の開催宣言、中尾会長挨拶、岡本大阪府建築士会会長の来賓挨拶、来賓・参与会員のご紹介、日本建築士会連合会長表彰受賞者の安田千鶴代・山本規子両氏の紹介と挨拶、山領京都府建築士会会長の乾杯の音頭で交歓会が始まりました。開始直後から出席者同士の挨拶や歓談で賑やかな会となりました。宴の中盤には、賛助会員の紹介が行われ、最後に城田副会長の挨拶と一丁締めで終宴となりました。



中尾会長は挨拶で「現在我々建築士は、防災や気候変動、脱炭素社会、空き家問題、人材不足といった様々な問題に直面している。これらの問題に対応していくとともに会員間の交流が深まる事業を積極的に進めていきたい。」と述べられました。事業としては、歴史的建造物の活用、非住宅の木造化の推進、ヘリテージマネージャーのスキルアップ、会員増強、インターンシップ制度の取組み強化、防災被災の連携体制の強化、近畿建築祭奈良大会の準備などの予定を紹介されました。SDGsの取組みが当たり前となっている社会で建築士に対して建築単体のみではなく、まちづくりといった広い分野への職能も期待されてきていると感じました。

奈良県建築士会では、会員の皆様に一人でも多く参加いただけるようなカジュアルな「会員交流会」が今夏新たに計画されています。会員同士が集い、一緒になって活動し目標に向かうとともに、参加される皆様にとって建築士会会員であることのメリットを発見していただける機会になればと思っています。

皆様の「会員交流会」への参加をお待ちしています。

【記：総務委員会 間嶋伸介】

奈良県建築士会の本年の目標に、「非住宅の木造化推進」を掲げており、CO₂を固定化できる木材を活用し、循環型社会に貢献することを目指しています。

昨年11月から本年1月にかけて、標記の基礎講座運営業務を奈良県環境森林部県産材利用推進課から奈良県建築士会が受託し実施しました。3日間の講義や見学を通じて非住宅木造建築に関する知識を習得し、木造建築を提案・設計できる技術者を増やすことを目的としています。建築士だけでなく、行政担当者、木材産業関係者、施工者など幅広い分野の技術者に参加していただきました。

当研修の講義では、「木材の性質・乾燥等」「木造建築 概論」「木材流通・地域材活用」「木の建築のための木構造」の各講座を通じて木材という生物材料を扱う上で知っておくべき基本的な性質から、設計手法、施工における留意点など広範囲な内容を学んでいただきました。中大規模木造建築では設計プロセスの初期段階から木材調達を含めた関係者ネットワークを構築し、地域力で木造建築を実現することの重要性を改めて認識することができました。

また、ワークショップでは非住宅木造建築に関する日頃の疑問を、異なる業種が含まれる参加メンバーで話し合い、発表していただきました。

木材強度を測定する曲げ試験の見学や、原木市場、木材製品市場の見学、木材乾燥機、JAS製材品の検査など、普段の仕事ではあまり目にする事ができない現場も見学する機会がありました。

参加者からは「木に関する様々な視点の講座や森林技術センター、市場、製材所などでの材木のリアルな試験や体験もあり、飽きのこない研修構成でした。」と好評価をいただきました。

ご協力いただいた各機関の皆様および士会関係者の皆様には実施にあたり大変お世話になりました。

今後、受講者の皆様が木造建築の推進に向けて活躍されることを期待しています。

【記：木造建築推進タスクフォース 伊藤吉郎】



令和7年1月25日(土)、奈良支部主催にて防災道の駅「クロスウェイなかまち」の見学会を行いました。令和6年11月30日にオープンした「クロスウェイなかまち」は、大規模災害時には県の広域防災拠点としての活用を想定し建設された県内初の「防災道の駅」です。大規模災害時には、警察・消防・自衛隊等の部隊が集結し救助活動の拠点となるため、高い耐震性と災害時を想定した設備計画がなされた建物となっています。通常は道の駅として利用され、農産物や特産品の直売所やレストラン、ドッグランを備えているので、この日も多くの人で賑わっていました。

まず、設計監理をされた榎谷設計様より建物についての説明をしていただき施設内の見学をしました。建物は平屋建て、北東棟、北西棟、南棟、防災倉庫の4棟から構成されており、意匠的には奈良県産材の桧や杉を使い、周りの古墳や丘陵の景色に馴染む建物となっています。災害時には、72時間以上の電力供給を可能とする電気設備や、700人程度が利用できる受水槽、また駐車場には、マンホールトイレのスペースも確保されていました。

施設の見学後、昨年7月、奈良支部の有志にて行った「能登半島地震災害状況調査」の報告が乾井氏、伊藤氏、中元氏からありました。地震から半年以上が経過しても、液状化の跡や倒壊した建物の復旧が思うように進んでいない状況がよくわかりました。一見無被害の建物でも、被害度応急危険度判定により「危険」とされている建物もあり、それは隣接建物が倒れ込む危険があるという判断で、耐震化等も地域と行政、建築士が一丸となって取り組まなければならないと改めて実感しました。また日本建築学会の調査によると、木造基準改正後(2000年以降)の家屋は無被害の割合が高く、耐震化の成果が見えます。人の命を守るため、その後の生活を守るためにはやはり耐震化は必要です。

私たち建築士にできる事は何か?安全な建物を造る事は言うまでもないですが、災害が起こった時に、二次被害を防止するためにも応急危険度判定を迅速に行える知識の取得と体制づくりや防災訓練等、常に自分事として考えていく事が大切だと感じました。

【記：奈良支部 瓶割 環】



令和7年1月26日(日)、天理市立柳本小学校で行われた自治会主催の「防災訓練」に参加しました。参加者は子どもを含む約500人で、運動場と体育館に配置された訓練エリアを巡り防災知識や防災技術を学ぶというものでした。参加者は、災害時の避難所づくり、救命救急と応急処置、電気防災、地域防災、消防団の初期消火と放水訓練、炊出し等々の訓練を通して防災知識を学びました。

建築士会は建築防災エリアを担当しました。「耐震について建築士と話してみよう!」をテーマに「誰でもできるわが家の耐震診断」の問診表を参加者に配布し、自宅の耐震診断を行っていただきました。参加者の中には「町には築150年以上の民家が現存している」「空き家となっている建物も増えている」などと不安を口にする方や耐震についてもっと理解を深めたいとおっしゃる方がいました。

また、生駒支部の協力を得て、「避難所運営ゲームHUG」の紹介とデモンストレーションを実施しました。私も子ども連れのご家族と一緒に参加し、ゲームを通して避難所で起こるであろう事象について考え、学ぶことができました。

また、建築士会エリアでは「奈良支部有志の能登半島地震の被災地視察報告」「教えて地震に強い住まいづくり」などのパネル展示も行いました。

これらの経験を通じて、参加者は実際に被災したとしても互いに連携してスムーズに防災活動ができるようになるに違いないと思いました。我々建築士は、今後、いつどこで起こるかわからない震災に対して、地域と協力し備える活動を継続して行うことが、ますます重要であると改めて認識しました。

【記：天理支部 庄田尚代】



避難所運営ゲーム HUG のデモンストレーション



耐震診断誰でもできる我が家の耐震診断

令和6年11月23・24日に士会会員と家族・知人を対象とした木育キャンプ FUN 木 FES を開催しました。キャンプの傍ら各自、木に纏わるマルシェに出店する事を参加条件とし、「木・山・自然」と「私たちの暮らし」について考える機会にしたいという想いで本事業を企画しました。(参加者合計：75名 内一般参加者：43名 子供：9名)

初日、イベント通貨として木片を用意。イベント中は木片も¥と等価というルールのもと、木片による買い物が各所で行われ、商品と木の関係性についての会話も行われていました。出店内容は、お酒(水⇒治水⇒森林機能)、ジビエ(森林環境・林業課題)など、計34品目となりました。また講師に里山活動者、ジビエ食品加工業者を招き、青年委員との三者でクロストークを実施。各自の立場で、木・森・山をどのように捉えているか伺う中、話題は地域経済・過疎地域課題、「木」から「社会」へと広がりました。

二日目、会場である「くにすの杜」は小学校跡地を活用したキャンプ場です。明治32年設立当時、山を切り開いて建築されました。その後、廃校となり、どのように手を加えて活用していくかの構想中に、「元々の姿である山に返す」というコンセプトが挙がりました。そのコンセプトのもと、植樹を行い、現状はその過程としてキャンプ場の運営を行っておられます。その会場に参加者で植樹を行い、本イベントを締めくくりました。

建材として木を捉えていましたが、参加者と交流する中で新たな価値観に触れ、木材・県産材利活用の意義が、建築士の立場として膨らみました。

運営については、他委員会・各支部からご協力頂き、この場をお借りしてお礼申し上げます。また実施後アンケートでは「今回のイベント通貨の導入は、相互的な出店者同士での通貨の循環を通して、人と人の繋がりと価値を創造するものであると解釈した。ただの木のプロックに役割が付与され、循環のキーになるという構造はすごく面白いし、木への興味関心を誘う観点からも有用であると思う。ぜひ改善を行った上で継続して欲しい。」というお声も頂きました。



写真：両日参加者と植樹後の記念撮影

【記：青年委員会 向川智己】

令和6年11月26日(火)女性委員会の主催で「今井町見学会」を開催致しました。一般の方を含め16名の参加となりました。

今井町が重要伝統的建造物群保存地区となり約30年、現在も年間数棟の修理・修景事業が進められ、多くの建築士が関わっています。今回は今井町並保存整備事務所の中川様を講師に迎え、重要文化財の建物を見学しながら、今井町保存事業の今までとこれから、今井町が伝建地区になった経緯などお話を伺いました。



今井まちなみ交流センター華葺(はないらか)にて、ジオラマの見学と今井町について解説を頂き町並見学へ。福永香奈さんがご担当された福井邸を見学し施工の際のお話も伺えました。

続いて、重要文化財の米谷家住宅・高木家住宅・今西家住宅を見学。米谷家住宅の縁側は、過去にお茶のCM撮影にも



使われたそうです。今西家住宅は、くぐり戸から内部に入るとむき出しの梁と大黒柱が圧巻でした。



見学会後は今井町の古民家カフェ「オーベルジュこもれび」にて、美味しいお食事を頂きながら楽しいひと時を過ごしました♪

当日はお土産に、全国の伝建地区を網羅した「歴史の町並」令和5年度版(全国伝統的建造物群保存地区協議会発行)の冊子を頂きました。

これからこの冊子を手につくだけでも多くの文化財を見学できればと思っております。

【記：女性委員会 中西佳奈】

令和6年12月15日(日)、生駒郡三郷町にあるFSS35キャンパス内で開催された、奈良おもちゃ美術館(3月会館予定、関西は初開設)主催「CHRISTMASをあそぼう!」に、奈良県建築士会 教育・事業委員会として出店してきましたので、報告いたします。

今回は、青年委員会が普段、出店ツールとして利用されている「棟上げ体験キット(通称:トントンキット)」を用いて、訪れたお子様に棟上げ体験をしていただくとともに、「木のパズル」体験コーナーを設けました。午前10時のイベントスタート以降、午後4時の終了時まで、我々のブースにも多くの家族連れが来ていただきました。



参加者のお子様の純真無垢な笑顔や少し大きめのヘルメットを被った可愛い姿に我々も癒され、終始疲れも吹き飛び、最後まで楽しくPRすることができました。また、特設コーナーに設けた「木のパズル」も盛況で、親子で悩みながらも楽しく遊んでおられました。私も青年委員会在籍時以来、久しぶりに挑戦してみましたが、最後の1ピースのみ、うまく組み合わせることができず、結局断念しました。

今回のイベントを通じて、建築士会の活動内容などについても保護者の方とお話する機会もあり、建築士会を広く市民の方々にPRできる絶好の機会となりました。

“木育”をテーマに開催された今回の事業。

木の温かみを感じながら、体を使い、時には頭を使い、更には職についても学んでもらえる。小さいお子様にとっては、非常に良い経験になったのではないかと感じました。

今後も、このような機会があれば、奈良県建築士会として、出店・参加をさせていただきたいと思っております。

【記:教育・事業委員会 坂本慎二】

令和7年1月19日(日)、この時期にしては珍しく、とても暖かく春を思わせるような陽気に恵まれました。

この良き日に、女性委員会・和室部会の西本さんが設計した「東吉野村にぎわいハウス」の上棟見学会に参加しました。本事業は、2024年度日本財団「もう一つの“家”プロジェクト」に採択されたもので、事業主は「特定非営利活動法人 東吉野村まちづくりNPO」です。この法人は、東吉野村で住み慣れた地域で最後までいきいきと暮らせる環境づくりに取り組んでいます。このプロジェクトのきっかけは、建築士会の米村氏が東吉野村を訪れ、NPO法人の辻本さんと出会い、一杯のコーヒーを飲んだことから始まりました。それから多くの出来事を経て、無事に上棟式を迎えることができました。

建物の用途は、高齢者向けのグループホームです。数名が共に暮らしながらもプライバシーを尊重し合える空間となる予定です。NPO法人の海老原さんは、「地域の中にある家」を目指し、地域の方々が最期まで安心して過ごせる場所、そして家族ではないけれど家族のようにふれあえる居場所づくりを大切にしています。



設計を担当した西本さんは、古民家の移築を提案し、法人の方々とともに「施設っぽくない建物」をテーマに設計しました。施工は山本工務店が担当し、棟梁の山本さんに古民家移築の苦労話を伺いました。古民家の材を再利用するため、不要なほぞ穴を一つひとつ補修しながら使っているとのこと。棟上げ初日は雪の降る中での作業となり、大黒柱に牛梁を入れる際はなかなか入らず刻んだり緩めたりとしながらやっと納まったとのことでした。厚鴨居がなかなか入らず、厚鴨居を入れながら柱を立てて入れていくなど様々な苦労があったようです。しかし、山本さんは「先人の建物を触り、移築する仕事は大工冥利に尽きる」と嬉しそうにお話されました。

見学会の最後には、法人のコーヒーハウスで美味しいケーキをいただきながら、参加者同士で楽しく語りました。次回は竣工見学会が企画されるとのことで、とても楽しみです。

【記:女性委員会 寺岡春恵】

お知らせ

●令和6年度受賞者のご紹介

○日本建築士会連合会表彰
 会長表彰 山本 規子 様 (桜井支部)
 同上 安田 千鶴代 様 (橿原支部)

●令和7年度通常総会の日程 (予定)

日時：令和7年5月16日 (金)
 場所：ホテルリガーレ春日野



●合格おめでとうございます (奈良県)

令和6年一級建築士試験 合格者数 24名
 二級建築士試験 合格者数 42名
 木造建築士試験 合格者数 3名

●入会

北井 直樹 様 (高田支部)

よろしくお祈りします。

●令和7年5月7日より奈良県全域が盛土規制法による規制区域に指定されます。

編集後記

昨年11月号よりお知らせ欄にてご案内させて頂いている「奈良県建築士会会員向けメール配信サービス」について、皆様はご利用いただけていますでしょうか。

こちらのメール配信サービスですが、所属している支部や委員会に関わらず奈良県建築士会に届いたイベント情報をメールで登録者に共有するサービスとなっております。また奈良県建築士会内の情報だけでなく、連合会や奈良県主催のイベントなど様々な情報を共有させて頂いています。メールは情報概要と詳細情報へのURLリンクが記載されており、シンプルで分かりやすい内容になっています。

配信サービスへの登録は右記のQRコードを読み取り、メールアドレスと氏名、所属支部を選ぶだけで登録完了になります。

私自身、現在メール配信を受けていますが、これまでの活動では得られなかった情報を得ることができ、今後の活動への参考になると感じています。またイベントへの参加だけでなく、PRしたいイベントをより素早く共有できるようになったと感じました。

このメール配信サービスは、登録いただける方が多いほど、皆様のご活動にとって大きなサポートになります。また、セキュリティや安全性にも十分配慮されたシステムで運用されています。登録は数分で完了しますので、ぜひご利用ください。

【記：情報・広報委員 永友 翔】



3月 19日(水) 本会支部長会・理事会 開催

4月 1日(火) 建築基準法等の改正施行 (4号特例縮小など)

士會奈良

通巻660号
 令和7年3月1日 (発行隔月1回1日発行)
 発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
 〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
 電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333
 WEBサイト：<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>
 e-mail：info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 中尾七隆
 編集 (一社) 奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委員長 伊藤 吉郎
 副委員長 小西 直樹 福田 成生
 委員 吉村 晃人 本多 健一
 高杉 明 永友 翔
 松尾 憲治 上柿 範兼
 吉田 泰造 松田 輝明
 小松原寛俊 大和 良樹
 押部 誠

私の選択は
 間違ってた
 なかった

選んだのは、合格者の50%以上が
 進んだ王道ルートでした。

総合資格学院イメージキャラクター
 令和4年度一級建築士試験合格 当学院受講生・併席
 田中 道子さん

1級建築士
 合格実績 No.1

平成26～令和5年度

1級建築士 設計製図試験

全国 10年間
 合格者占有率

54.8%

全国合格者合計 36,470名中 / 当学院受講生 19,984名

※全国合格者数は、(公認)建築技術教育センター発表による。 ※総合資格学院の合格実績には、経理試験のみを受験生、教材購入費、無料の成績書提供、過去受験生は一切含まれていません。(令和5年12月25日現在)

PRICE
 DOWN

各講座のクオリティは上げながら
 受講料を 値下げ しました

詳細は奈良校まで！

総合資格学院



開講講座

建築士/建築・土木・管工事施工管理/設備・構造設計1級建築士/建築設備士/宅地/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

お問合せ先

奈良校 TEL:0742-30-1511